

## 1. サービス概要

IDCF クラウド RDB は、IDCF クラウドのコンピューティングサービスから利用可能なリレーショナルデータベース（RDB）を提供するサービスです。お客様は、簡単かつ短時間で RDB を使いはじめることができ、設計や構築、運用にかかるコストを削減できます。また、必要に応じて Active-Standby の自動切り替えによる冗長機能を利用することで、可用性を高めることが可能です。

### 1.1. 用語の定義

用語	定義
RDB	関係データベースとその管理システムのソフトウェアや機能をまとめて RDB とします
RDB サービス	本サービスのことで、サービス全体を指します
RDB マシン	RDB のシステムが稼働するマシン環境を指し、シングル構成でも冗長構成でも 1 つとして扱います
メジャーバージョン	MySQL Community Edition 5.7.X-Y のメジャーバージョンは、5.7 として扱います 例) 5.7.20-1 のとき 5.7
マイナーバージョン	MySQL Community Edition 5.7.X-Y のマイナーバージョンは、X として扱います 例) 5.7.20-1 のとき 20
メンテナンスバージョン	MySQL Community Edition 5.7.X-Y のメンテナンスバージョンは、Y として扱います 例) 5.7.20-1 のとき 1
コンピューティングサービス	IDCF クラウドの仮想マシンを提供するサービスを指します ( <a href="https://www.idcf.jp/cloud/">https://www.idcf.jp/cloud/</a> )
オブジェクトストレージサービス	IDCF クラウドのオブジェクトストレージを提供するサービスを指します。新規受け付け停止中 ( <a href="https://www.idcf.jp/cloud/storage/">https://www.idcf.jp/cloud/storage/</a> )
クラウドストレージサービス	IDCF クラウドのクラウドストレージを提供するサービスを指します ( <a href="https://www.idcf.jp/cloud/gcp/storage/">https://www.idcf.jp/cloud/gcp/storage/</a> )
Mackerel	株式会社はてなサーバー監視サービスを指します( <a href="https://www.idcf.jp/cloud/mackerel/">https://www.idcf.jp/cloud/mackerel/</a> )

### 1.2. 提供機能

本サービスは、以下の機能で構成されます。

タイプ	項目	内容
基本サービス	作成	IDCF クラウドの仮想マシンから接続可能な RDB マシンを作成します。RDB マシンへは、作成時に指定する FQDN に DNS ベースでアクセスします。RDB マシンには DHCP 範囲内から自動でプライベート IP アドレスが割り当てられ、標準ネットワーク、追加ネットワークともに対応しています
	マルチゾーン・マルチリージョン接続	複数のリージョンやゾーン、ハウジングサービスとのハイブリッド環境で使ってもプライベートコネクト経由で RDB マシンへ接続します ※接続元クライアントにてスタティックルートの設定が必要です
	削除	RDB マシンを削除し、課金の停止やデータの削除を行います

タイプ	項目	内容
オプションサービス	バックアップ	1 日 1 回指定の時間に RDB のダンプを自動取得し、クラウドストレージサービス（またはオブジェクトストレージサービス）へ転送することでデータを保管します
	リストア	障害時などに取得したバックアップを元に RDB マシンを作成し、バックアップ取得時点のデータに戻します
	冗長化	ボリュームミラーリングを用いた Active-Standby 間のデータの同期と、データベース応答を監視した DNS ベースの自動切り替え可能な冗長構成をとることができ、本番サービス向けに可用性の高い RDB マシンを構築します

### 1.3. 契約の単位

本サービスは、単一の RDB として動作するシステムを 1 契約とします。

### 1.4. 料金

#### 1.4.1. 料金体系

本サービスは、マシンタイプに応じた RDB マシンと容量に応じたデータ保存先のボリュームの 2 つに対して月額上限付きの時間従量料金が発生します。初期費用は発生しません。また、バックアップオプションを利用すると、取得したデータの実容量に応じたクラウドストレージサービス（またはオブジェクトストレージサービス）の料金が発生します。

#### 1.4.2. RDB マシン料金

コンピューティングサービスと同スペックのマシントイプを用意しています。冗長化オプションを利用すると、2 台分の料金が発生します。また、ルートディスク（OS 領域）の料金も含まれています。

マシントイプ	仮想 CPU コア		メモリサイズ	帯域	時間従量料金	月額上限料金
light.S1	1	0.8 GHz 相当	1 GB	2 Gbps	¥1/時	¥500
light.S2	1	1.6 GHz 相当	2 GB		¥7/時	¥3,500
light.M3	2		3 GB		¥16/時	¥8,000
standard.S4	1	2.4 GHz 相当	4 GB		¥17/時	¥8,500
standard.S8	1		8 GB		¥23/時	¥11,500
standard.M8	2		8 GB		¥39/時	¥19,000
standard.L16	4		16 GB		¥78/時	¥38,000
standard.XL32	8		32 GB		¥156/時	¥75,500
highcpu.M4	2		2.6 GHz 相当		4 GB	¥33/時
highcpu.L8	4	8 GB			¥57/時	¥27,500
highcpu.XL16	8	16 GB			¥112/時	¥54,000
highcpu.2XL32	16	32 GB			¥227/時	¥109,500
highmem.M16	2	2.2 GHz 相当	16 GB		¥40/時	¥19,500
highmem.L32	4		32 GB		¥80/時	¥39,000
highmem.XL64	8		64 GB	¥162/時	¥78,000	
highmem.2XL128	16		128 GB	¥246/時	¥120,000	
highio.3XL128 <sup>*1</sup>	24	2.5 GHz 相当	128 GB	5 Gbps	¥260/時	¥128,000
highio.3XL128.g2 <sup>*1</sup>		2.6 GHz 相当				
highio.5XL128 <sup>*1</sup>	40	2.5 GHz 相当	128 GB		¥420/時	¥209,000
highio.5XL128.g2 <sup>*1</sup>						

\*1: コンピューティングサービス同様にハードウェア専用タイプでの提供です。また、ローカルディスクの料金も含まれます。

#### 1.4.3. ボリューム料金

コンピューティングサービスと同スペックのボリュームを用意しています。冗長化オプションを利用すると、2 台分の料金が発生します。

マシントイプ	ボリューム容量	時間従量料金	月額上限料金
light タイプ standard タイプ highcpu タイプ highmem タイプ	1~1,000 GB	¥0.04/GB	¥20/GB
highio.3XL128 <sup>*1</sup>	2,000 GB	¥0	
highio.5XL128 <sup>*1</sup>	800 GB	¥0	

\*1: ハードウェア専用タイプのためボリューム料金は RDB マシン料金に含まれます。g2 タイプも同様です。

## 1.5. 提供範囲

本サービスは、IDCF クラウドのすべてのリージョンやゾーンにおいて利用可能なグローバルサービスです。各ゾーンへの対応はサービス提供開始後順次対応していきます。最新の対応情報は、サービスサイト (<https://www.idcf.jp/cloud/rdb/>) やクラウドコンソールから確認できます。

また、各ゾーンにおける仮想マシンリソースのキャパシティ不足の場合、新規作成を一時的に停止する場合があります。

サービス区分	対象サービス	提供リージョン	提供ゾーン
クラウド	IDCF クラウド	東日本リージョン 1	全ゾーンで利用可能
		東日本リージョン 2	
		西日本リージョン	

## 2. サービス仕様

### 2.1. データベース機能

項目	内容
データベースシステム	MySQL Community Edition 5.7
冗長構成	シングル構成 / Active-Standby 構成 (ゾーン内)
マシンタイプ	IDCF クラウド コンピューティングサービスのマシンタイプと同等の中から選択 <sup>*1</sup>
ボリューム	1GB ~ 1,000GB (HighIO タイプは 800GB または 2,000GB)
マシンタイプリサイズ	無停止でスペックアップ可能 (スペックダウン不可) <sup>*2 *3</sup>
ボリュームリサイズ	無停止でサイズアップ可能 (サイズダウン不可)
タイムゾーン <sup>*4</sup>	JST
文字コード <sup>*4</sup>	utf8mb4
バックアップ	XtraBackup によるダンプ方式 <sup>*5</sup>

\*1: GPU BOOST タイプは対象外です。

\*2: CPU(コア数、クロック)、メモリが上がるマシンタイプへのみ可能です。ただし、Light タイプから他のタイプへは変更できません。

\*3: HighIO タイプには対応していません。

\*4: 初期値です。

\*5: InnoDB のみ動作を確認しておりサポートしています。

#### 2.1.1. データベースシステム

本サービスは、MySQL Community Edition 5.7 を提供します。

- MySQL Community Edition は、GPL ライセンス (<http://www.gnu.org/licenses/old-licenses/gpl-2.0.html>) に従い提供します。お客様も GPL ライセンスに従い利用する必要があります。
- マイナーバージョン及びメンテナンスバージョンは、当社にて動作を確認したバージョンを提供します。現在これらのバージョンを指定することはできません。
- 提供するバージョン (OS 含む) にて、当社及びお客様サービスの運営にあたりクリティカルな不具合や脆弱性が見つかった場合は、当社にてバージョンアップやパッチ適用のメンテナンスを実施します。サービス停止を伴う場合は、作業実施の 2 週間前までに当社より事前に通知します。ただし、緊急時や止むを得ない場合はこの限りではありません。
- 当社にてメジャーバージョンアップをすることはありません。
- MySQL コミュニティによるサポート期間 (開発) が終了したバージョンの新規作成は停止します。該当バージョンを作成済みの場合は、そのまま利用を継続することが可能ですが、当社及びお客様サービスの運営にあたりクリティカルな不具合や脆弱性が見つかった場合は、作業実施の 2 週間前までに当社より事前に通知のうえ利用を停止します。ただし、緊急時や止むを得ない場合はこの限りではありません。

### 2.1.2. 冗長構成

本サービスは、シングル構成と Active-Standby 型による冗長構成を選択することができます。シングル構成から冗長構成、冗長構成からシングル構成への変更はできません。

#### ■シングル構成

- RDB マシンを 1 台のみ作成します。ボリュームミラーリングは実行されないため、冗長構成よりディスク I/O 性能は高速です。
- 障害等で RDB マシンが停止すると復旧できません。再度利用するには、バックアップからリストアする必要がありますので、バックアップオプションを利用してください。
- 物理ホストの障害により RDB マシンがダウンしたとき、クラウド基盤の HA 機能により RDB マシンはフェイルオーバーしますが、RDB の動作は保証していません。本番サービス等重要な用途での利用時は、冗長構成を利用してください。
- RDB マシン上の監視エージェントにて、DB 応答を監視しています。障害検知時には[3.2]のとおり通知します。

#### ■冗長構成

- Active ノードと Standby ノードの 2 台を同じネットワーク上に作成し、ブロックレベルのミラーリングによりボリュームを同期します。
- ボリュームのみ同期しているため、ボリュームに書き込まれていないメモリ上のデータは、障害等による切り替わり時に失われます。インメモリでの利用を避け、またダーティページを抑えるなどの運用や設定をしてください。
- Standby ノードのデータベースサーバーのプロセスは停止しており、アクセスできません。
- Active ノード上の監視エージェントにて、DB 応答を監視しています。障害検知時には[3.2]のとおり通知します。
- Active ノードに障害が発生した場合は、FQDN のレコードを Standby ノードへ変更することで切り替わります。Standby ノードに障害が発生した場合は、自動で Standby ノードが作成され、Active ノードから再同期します。切り戻りは行いません。
- FQDN アクセスによる DNS ベースの切り替えのため、クライアントがアクセスするときは、DNS 問い合わせレコードをキャッシュし続けなければならない必要があります。
- 障害検知し、Standby ノードを Active ノードに切り替えて、データベースの応答ができるまで約 90 秒かかります。この値は保証値ではなく、障害の状況や、クラウド基盤の状況により、より速くなる場合や遅くなる場合があります。

### 2.1.3. マシンタイプとボリューム

本サービスは、コンピューティングサービスと同等のマシンタイプが選択できます。選択可能なマシンタイプや性能も各ゾーンに依存します。ボリュームもコンピューティングサービスと同等となり、ボリューム 1 つで 1GB~1,000GB の間で指定し作成できます。そのため、ディスク I/O 性能が必要な場合はオールフラッシュ対応ゾーン（東日本リージョン 1 の radian/newton、東日本リージョン 2 と西日本リージョンの全ゾーン）をご利用ください。また、ハードウェア専用タイプも利用でき、この場合はコンピューティングサービス同様に高速なローカルディスクが利用できます。

また、サイジングのための参考値として、別紙 A にベンチマークスコアを記載します。

#### 2.1.4. リサイズ

本サービスは、マシンタイプのリサイズとボリュームサイズのリサイズが可能です。ハードウェア専用タイプへのリサイズやハードウェア専用タイプ間のリサイズは利用できません。

##### ■マシンタイプのリサイズ

- マシンタイプを無停止でスペックアップ可能です。innodb\_buffer\_pool\_size もメモリサイズに併せて変更します。
- 本機能の処理中は若干の処理性能低下が生じる場合があります。
- スペックアップは、CPU 数、CPU クロック数、メモリサイズが元のスペック以上になる場合のみ可能です。
- Light タイプから他のタイプへはリサイズできません。
- スペックダウンを伴うリサイズは今後提供予定です。

##### ■ボリュームのリサイズ

- ボリュームサイズを無停止で増設可能です。
- 本機能の処理中は若干の処理性能低下が生じる場合があります。
- ボリュームの最大サイズ 1,000GB まで何度でも拡張可能です。
- ボリュームサイズの削減はできません。

#### 2.1.5. バックアップとリストア

本サービスは、バックアップ機能と、その取得したバックアップからのリストア機能を提供します。リストア機能では、取得したバックアップをもとに新たに RDB マシンを作成します。取得したバックアップは通常、クラウドストレージサービスのお客様環境内に保存します。

##### ■バックアップ仕様

項目	内容
定期バックアップ	RDB マシン作成時に指定した時間帯にて日次のバックアップを自動取得。クラウドストレージを利用すると時間帯等の設定を変更可能
手動バックアップ	RDB マシンの詳細画面から任意の時間でバックアップを手動実行することも可能
バックアップ方式	XtraBackup にてダンプを取得し、ファイル容量を圧縮してクラウドストレージサービス（またはオブジェクトストレージサービス）へ転送
バックアップタイムスタンプ	バックアップしたファイルの内容は、バックアップが完了した時刻 クラウドストレージサービス（またはオブジェクトストレージサービス）上のバックアップしたファイルの作成日時は、作成を開始した時刻
バックアップ容量	クラウドストレージサービス（またはオブジェクトストレージサービス）の課金対象はファイル容量圧縮後のサイズ

## ■処理時間目安

- バックアップに要する目安の時間(分)は、「データボリュームの使用サイズ(GB) × 0.6 ÷ ご利用中のマシンタイプ別の処理速度 + 0～5 分」となります。「マシンタイプ別の処理速度」は以下の通りです。ただし、リストア実行時の通信状態やクラウドストレージサービス（またはオブジェクトストレージサービス）の負荷状況により変動しますので、あくまで一つの目安としてお考えください。  
【light.S1: 0.15(GB/分)、light.S2: 0.4(GB/分)、その他の standard 以上のタイプ: 1.0(GB/分)】
- リストアに要する目安の時間(分)は、「バックアップファイルのサイズ(GB) ÷ ご利用中のマシンタイプ別の処理速度 + 5～10 分」となります。「マシンタイプ別の処理速度」は以下の通りです。ただし、リストア実行時の通信状態やクラウドストレージサービス（またはオブジェクトストレージサービス）の負荷状況により変動しますので、あくまで一つの目安としてお考えください。  
【light.S1: 0.3(GB/分)、light.S2: 1.0(GB/分)、その他 standard 以上のタイプ: 1.6～2.0(GB/分)】

### 2.1.6. ネットワーク構成

RDB マシンは以下 3 種類のネットワークインターフェースを持ちます。

ネットワーク	内容
ユーザーセグメント	RDB マシン作成時に指定するネットワークで、お客様の IDC/F クラウドの仮想マシン等と接続します。RDB マシンには指定したネットワークの DHCP 範囲から自動でプライベート IP アドレスを割り当てます。接続するネットワークを増やすことはできません。
パブリックセグメント	RDB マシンにて実行したバックアップファイルをクラウドストレージサービス（またはオブジェクトストレージサービス）へ転送するネットワークです。グローバル IP アドレスを割り当てており、適切なアクセス制御を行っております。当社利用のみのため、通常お客様から意識する必要はございません。
アドミンセグメント	当社から RDB マシンの管理・監視に利用するネットワークです。冗長構成時のボリュームミラーリングもこのネットワークを利用します。当社利用のみのため、通常お客様から意識する必要はございません。

### 2.1.7. 削除

RDB マシンを削除すると、保存されたデータ含めて RDB マシン自体が即時に削除されます。一切復旧できませんので予めご了承ください。この削除時に指定することで、バックアップで取得したクラウドストレージサービス（またはオブジェクトストレージサービス）上のファイルも併せて削除することができます。削除時に指定しないとバックアップファイルは残ります。

また、冗長構成の場合、障害が発生した RDB マシンは冗長構成から切り離し、停止して障害調査等のため最大 14 日間の保持後に自動で削除します。



### 2.1.8. ステータス

RDB マシンのステータスの情報は以下の通りです。

ステータス	内容
Running	RDB マシンが正常に稼働している状態です
Creating	RDB マシンを作成中の状態です。作成が完了すると Running になります
Restoring	RDB マシンをリストアで作成中の状態です。作成が完了すると Running になります
Updating	冗長構成の RDB マシンで、障害による切り替り（リカバリー）処理中の状態です。処理が完了すると Degraded になります。 その他、マシンタイプやボリュームのリサイズ中にもこの状態になり、処理が完了すると Running になります
Degraded	冗長構成の RDB マシンで、障害による切り替り（リカバリー）が完了し、新しい Standby ノードを作成するまでの状態です。新しい Standby ノードの作成が開始すると Updating になり、完了すると Running になります
Error	RDB マシンにて何らかの処理が失敗しエラーの状態です。RDB として利用できない状態や運用できない状態のため、リストア等で RDB マシンの再作成が必要な状態です

## 2.2. クラウドコンソール

クラウドコンソール上で提供されるコントロールパネル機能の一覧です。

項目	内容
RDB 作成	RDB マシンを作成します
RDB 一覧表示	作成した RDB マシンを一覧表示します。ここで対象を選択することで、詳細画面が表示されます
RDB 詳細表示	RDB マシンに関する詳細情報を表示します。マシンタイプリサイズ、ボリュームリサイズ、削除、手動でのバックアップ取得といった機能が利用できます
バックアップ一覧表示	バックアップオプション利用時に取得したバックアップの一覧を表示します。バックアップファイルを指定してのリストア、バックアップファイルの削除ができます
リソースリミット閲覧	本サービスでのリソースリミットの値の確認と、上限変更申請ができます
操作ログ閲覧	RDB マシンの作成や削除などの RDB サービスの操作ログ、及びバックアップや自動切り替えなどのシステムが自動で行う処理のログを閲覧することができます

## 2.3. API

API の提供はありません。今後、提供予定です。

## 2.4. リソース監視

IDCF クラウドと連携している Mackerel を用いて RDB をリソース監視することができます。Mackerel API Key を入力すると、mackerel-agent をインストールします。Mackerel API Key の変更や登録解除することもできます。

## 2.5. 操作権限

クラウドコンソールから、以下の操作を行うことができます。役割によって、一定の操作制限が適用されます。

	項目	マスターユーザー (Master User)	パワーユーザー (Power User)	ユーザー (User)	ビルディングユーザー (Billing User)
クラウドコンソール	申込	○	×	×	×
	追加・削除	○	○	○	×
	操作ログ	○	○	○	×
	情報表示	○	○	○	×

## 2.6. リソースに関する制限事項

本サービスにおけるリソース使用について、以下のような上限があります。冗長構成での利用でも 1 つとしてカウントします。

リソース	上限
RDB 数	20

### 3. サービス保守運用

#### 3.1. カスタマーサポート

お客様からのお問い合わせは、すべて本サービスのポータルサイトから受け付けます。その他の手段（電話による口頭の依頼、メール、または FAX 等）によるご依頼は受け付けていません。ただし、プレミアムサポート(有償)をご契約の場合のみ、お電話でのサポートが可能となります。サポートの受付・対応時間は以下のとおりです。

項目	媒体	受付時間	対応時間
サービス お問い合わせ <sup>*1</sup>	オンラインサポート	24 時間 365 日	平日 9:00~17:00
	プレミアムサポート <sup>*3</sup>	平日 9:00~17:00	平日 9:00~17:00
	メール	受け付けていません	
障害連絡受付 及び その対応 <sup>*2</sup>	オンラインサポート	24 時間 365 日	24 時間 365 日 <sup>*4</sup>
	プレミアムサポート <sup>*3</sup>	平日 9:00~17:00	平日 9:00~17:00
	メール	受け付けていません	

\*1: サービスお問い合わせ対応時間は、土日・祝日、当社指定の休業日を除きます。

\*2: 当社が障害を検知した場合は、指定された連絡先にメール、電話、当社所定のポータルサイトのいずれかで通知を行います。

\*3: クラウドコンソールからプレミアムサポート（別途有償）をご契約いただくと、標準サポートに加え電話でのお問い合わせが可能になります。お客様の電話を受ける際に、アカウント毎に発行された PIN コードを用いて本人確認を行います。

\*4: お客様に影響を及ぼさない事象と当社が判断した場合は、24 時間 365 日対応の対象外となります。

注) お問い合わせや障害連絡受付の応答時間及び解決時間は、当該事象のセビリティ（深刻度）等に応じて異なります。また、当社は当該事象の解決のために商業的に妥当と思われる努力を行いますが、あらかじめ特定の時間内に完了することは保証しません。

#### 3.2. 障害通知及びメンテナンス情報

本サービスに関する障害情報及びメンテナンス情報の通知に関しては、以下のとおりです。

カテゴリ	通知方法
障害情報	当社クラウドコンソールにてお知らせいたします。 <sup>*1</sup>
メンテナンス情報	

\*1: サービス影響がでるクリティカルな障害やメンテナンスの場合、メールで通知する場合があります。

## 4. 契約条件

### 4.1. サービスご利用条件

本サービスは、以下の契約書類に定めるご利用条件に従いお客様に提供されます。

契約名	契約書類
本サービス 利用契約	「クラウドサービスに関する契約約款」、「サービス仕様書（本書）」、当社が定めるその他の各種規程及びその他本サービスの申し込み画面に記載の内容（総称して「本サービス約款等」）にご同意いただくこと

### 4.2. 契約期間

本サービスの契約期間は以下のとおりです。

項目	詳細
契約期間	本サービスの利用契約は、期限の定めはなく、「[4.3] 解約」に従って本サービスの利用契約を終了させることができます。なお、本サービスの最低利用期間はありません

### 4.3. 解約

- お客様及び当社は、いつでも本サービスに係る当社所定のウェブサイトから又は当社が定める方法により本サービス利用契約を即時に解約することができます。
- 本サービスのみの利用契約を単体で解約することはできません。本サービスの利用契約を終了するには、会員契約の解約（アカウントの廃止）が必要です。本サービスの利用契約の解約は、「クラウドサービスに関する契約約款」の「クラウドサービスに関する会員規程」第 16 条に記載の方法により解約できます。
- 解約後はサービスをご利用いただくことができませんのであらかじめご了承ください。

### 4.4. SLA（Service Level Agreement: 品質保証制度）

本サービスは、現在 SLA 対象外です。実績値をもとに今後設定予定です。

また、SLO（Service Level Objective: サービスレベル目標）として、以下を設定しています。

項目	目標値
冗長構成で利用したときの稼働率	月間 99.999% <sup>*1</sup>
冗長構成で障害による切り替え時間 <sup>*2</sup>	90 秒

\*1: 障害により正常に切り替った際にかかった時間は含みません。

\*2: 障害を検知してから正常に応答を返すまでを切り替え時間とします。

#### 4.5. ご利用上の制限及び注意事項

「クラウドサービスに関する契約約款」に定めるほか、本サービスに関して以下の制限事項及び注意事項があります。

- お客様は、本サービスが本質的に情報の喪失、改変、破壊等の危険が内在するサービスであることを理解したうえで、すべてのお客様データをお客様自らの責任において利用、保管管理するものとします。
- バックアップからのリストア機能によるデータ等の復旧を行うことに関する何らの保証も行いません。データ等の消失若しくは欠損等が生じた場合であっても、その理由の如何を問わず一切の責任を負いません。
- 本サービスは、MySQL 自体のサポートやコンサルティング、チューニング支援等を提供するものではありません。
- 以下の例のように、データが失われるリスクがあります。[2.1.5]のバックアップの利用を推奨いたします。
  - ・冗長構成での障害等により冗長化（データの再同期含む）が完了する前に、再度障害が発生
  - ・シングル構成での障害発生
  - ・クラウド基盤にて、想定外や広範囲の障害が発生
- RDB マシンに SSH でログインし、変更等を加えることはシステムの仕様上、制限し禁止しています。変更を加えた場合はサポート対象外となります。
- 運用サポート上、当社が必要と判断した場合に RDB マシンへ適切な対処を行う事がありますので、予めご了承ください。
- RDB マシン作成時に設定されているパラメーターグループの設定を変更し、その変更が原因で発生した不具合はサポートの対象外となります。
- 当社が管理用に作成しているデータベース上のユーザー（idcf\_admin）を変更や削除しないでください。この場合、正常に動作しなくなりサポート対象外となります。
- クラウド基盤のキャパシティ上、一時的にマシンタイプやボリュームのリサイズが失敗する場合があります。
- バックアップオプションの利用にあたり、オブジェクトストレージサービスにて対象のバケットを削除した場合、バックアップはエラーで失敗し続けますので、削除しないでください。クラウドストレージサービスにて対象のバケットを削除した場合、同じ名前で再度作成します。
- バックアップオプションの利用にあたり、クラウドストレージサービスにて **idcf-rdb** から始まる GCP サービスアカウントとそのキーを作成します。システム上削除や再作成しますので、お客様での削除操作や他の目的での利用はしないでください。
- バックアップオプションの利用にあたり、シングル構成/冗長構成の Active ノードからダンプを取得しますので、バックアップ取得中は RDB の負荷の影響を受けます。負荷の低い時間帯での取得を推奨します。
- 本サービスに関する規定に基づいて、本サービスの利用契約が解約された場合、当社は当該契約及びこれに含まれる蓄積データをお客様の承諾なく削除できるものとします。
- 本サービスの設備等のメンテナンス実施により、一時的にサービスを停止する場合があります。サービス停止を伴う計画的メンテナンス実施が必要となった場合は、作業実施の 2 週間前までに当社より事前に通知致します。ただし、緊急時や止むを得ない場合はこの限りではありません。

#### 4.6. 免責事項

クラウドサービスに関する契約約款及びサービス申込み時に提示されるもののほか、本サービスに関して、以下の免責事項があります。

- 本サービスの利用により、お客様が登録したデータの改竄、削除、滅失、消去等により生じた損害及びお客様の逸失利益については、当社は一切その賠償責任を負わないものとします。
- サーバー上に設置されるお客様が作成したコンテンツ、プログラムの動作により生じた損害に対して、当社は一切その賠償責任を負わないものとします。
- 当社は、本サービスについて、お客様が意図する特定利用目的への適合性、有用性、確実性、完全性等に関し、いかなる保証責任も負いません。
- 当社は、本サービスの利用によって生じたお客様または第三者の損害に対して、いかなる責任も負わないものとします。

#### 4.7. 権利帰属

本サービスに関連する著作権、特許権その他の知的財産権は、当社が保有します。なお、本サービスのご利用にあたり、原始的にお客様が保有していた情報に関する権利は、お客様が保有します。

#### 4.8. その他

- 本サービス仕様書の記載事項及び本サービス仕様書に記載がない事項については、クラウドサービスに関する契約約款及びサービス申込み時に提示される各条項及び各規定が優先的に適用されます。

## 別紙 A: サイジングのための参考値

Version: 1.1

Date Released: 2018/09/29

参考までに下記にベンチマークスコアを記載します。ゾーン毎のスペック（ハードウェア構成）やクラウド基盤の負荷状況でも変化する可能性があり、この値を保証するものではありません。

以下に 2018 年 5 月に東日本リージョン 2 farad ゾーンにて冗長構成で取得した値を掲載します。

項目	light.S2	standard.S4	standard.M8	standard.L16	standard.XL32
sysbench [tps] *1	115	202	397	762	1150
tpcc-mysql [TpmC] *2	819	1646	4205	8419	16052

\*1: sysbench (<https://github.com/akopytov/sysbench>) を用いてベンチマークした値。

主なパラメータ[--threads=16 --time=3600 --tables=8 --table-size=100000 oltp\_read\_write]

\*2: tpcc-mysql (<https://github.com/Percona-Lab/tpcc-mysql>) を用いてベンチマークした値。

主なパラメータ[-w 500 -c 32 -l 3600 -r 0]

例えば、standard.M8 よりも処理性能が必要な場合は、CPU 数を増やして standard.L16 等を検討してください。また、データ量が多くメモリ不足の場合は、standard.M8 からメモリの多い standard.L16 等へのスペックアップを検討ください。

また、リソース監視の機能により、負荷がかかっているときのリソースの状況を確認することができます。